



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2024・12 第206号



### クリスマスは何チキン派？

年の瀬も近づき、街の装いもクリスマスモードになってきました。クリスマスと言えば“チキン”を食べるという習慣が根付いていますが、その文化は1860年代のアメリカ開拓時代から始まっているそうです。ヨーロッパからアメリカへ移民してきた人たちが食糧難で冬を越せないと困っていたところ、先住民のインディアンが七面鳥などの多くの食材をプレゼントしてくれたことから、クリスマスなど大勢の人が集まる行事で七面鳥のローストが食べられるようになったとのこと。日本では明治時代以降に欧米文化が取り入れられると、クリスマスが年末のイベントとして浸透しましたが、その後1970年にケンタッキーフライドチキンの1号店がオープンすると、七面鳥が手に入りにくい日本では「ケンタッキーのフライドチキンでクリスマスを祝う」という文化が急速に広まったそうです。



昔はケンター択でしたが、モスバーガーのモスチキンに始まり、コンビニ各社のチキン関連商品も充実し、最近ではコストコの“ロティサリーチキン”（低温でじっくり時間をかけて炙り焼きにすることで、余分な脂を落としつつ、うまみはしっかり残す調理方法）なども大人気となっています。

### 鶏肉の消費

クリスマスだけでなく、鶏肉を使った郷土料理は日本各地で食されています。令和4年（2022年）の都道府県民1人あたりの年間の鶏肉消費量の調査によると、第一位は大分県で、全国平均が4.31kgなのに対し、2倍以上の9.20kg（金額にして11,043円 ※ブロイラーのもも肉で換算）とのこと。大分の鶏料理と言えば、鶏めしやB級グルメ“中津からあげ”などが有名ですから、なるほど、納得です。なお、“鶏飯（けいはん）”と混同しやすいですが、鶏飯は鹿児島県奄美群島で作られる郷土料理で、鶏めしが炊き込みご飯や丼ものの形式に近いのに対し、鶏飯はだし茶漬けに近い食べ物です。

先日、香川県高松市を旅行しましたが、こちらでもご当地グルメ“骨付鶏”のお店がたくさんありました。丸亀市が発祥だそうです。やや固めのお肉で噛むほどに味わい深い親鶏（通称おや）と、柔らかく食べやすい若鶏（通称わか）があり、クリスマスチキンと言えば骨付鶏というご家庭もあるほど親しまれているそうです。



さて、今年も残すところ1ヶ月を切りました。そろそろクリスマスの準備を始めているかと思いますが、今年のクリスマス、みなさんは何チキンにしますか？ 浜ちゃんなら「やっぱりチキンライスがいいや。」って言うかな？ (O)

### 鶏にとって受難の時代 “鳥インフルエンザ”

12月に入り気温が一段と下がり、体調を崩しやすい時期になってきました。特に今年は、季節性インフルエ

ンザが例年よりも流行しています。ひとたび発症すると、高熱や関節痛にうなされ非常に苦しい思いをするインフルエンザですが、近年はワクチン接種による予防はもちろん、抗ウイルス薬（タミフル、リレンザなどのノイラミニダーゼ阻害薬、ファビピラビルなどのポリメラーゼ阻害薬）などの活用もあり、以前よりも対処できる病気となりました。一方、インフルエンザウイルスは、他の動物種にも感染する“人獣共通感染症”に分類され、ヒトだけでなく鳥類にとっても重要な病原体です。近年、世界各地で猛威を振るっている鳥インフルエンザですが、今シーズンも既に国内 10 道県で 12 事例発生しており、約 124.3 万羽が殺処分の対象となっています（2024 年 12 月 6 日現在）。肉養鶏、採卵鶏問わず、北海道から鹿児島まで全国的に発生しており、鶏卵価格の高騰や鶏肉不足が懸念されています。なお、11 月 21 日に開催された農林水産省の「鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議」では、新たな対策として、鶏舎への塵埃（じんあい）侵入防止（フィルターを設置）や乾燥対策としての細霧装置の設置などが提案されています。

### **米国での乳牛への鳥インフルエンザの感染事例**

鳥類間での感染が拡大している鳥インフルエンザですが、今年の 3 月に米国カンザス州およびテキサス州で、乳牛への高病原性鳥インフルエンザウイルス（HPAI）の感染が世界で初めて確認されました。さらには乳牛からや乳牛への感染事例も確認されており、感染牛では泌乳量の減少、反すうやルーメン運動の低下を伴う食欲の低下が見られ、重症例では粘ちゅう（濃厚・濃縮・初乳様）な乳の排出や急激な泌乳量の減少が見られたと報告されています。一方、感染牛の臨床所見は比較的軽く（透明鼻汁の排出、便の異常、抑うつ、脱水、発熱など）、7～10 日程度で回復するとされており、鳥では致死的であるのと対照的です。

感染経路については、感染牛の呼吸器系からは高濃度のウイルスは検出されていないことから、呼吸器を介した感染は主要な経路ではなく、一方、乳中に多くのインフルエンザウイルスが排出されたことから、搾乳作業を介して感染拡大したと考えられています。米国では、ウシでの感染拡大防止のために、州境を超えて移動する搾乳牛については、HPAI 検査を行うことが義務付けられました。その他、感染牛の隔離、ウシの移動は可能限り控える事、農場に搬入された牛は 30 日間隔離する事が推奨されています。なお、FDA や USDA は、市販されている牛乳・乳製品の原料はほぼ全て加熱殺菌されていること、また病気のウシに由来する乳は市場に出荷されないことから、安全性が確保されているとしています。

### **乳牛からヒトへの感染**

乳牛から乳牛への感染だけでなく、2024 年 4 月以降、感染牛と接触のあった 31 人の HPAI 感染（乳牛からヒトへの感染）が報告されています。これまで報告された事例では、いずれも軽症で回復済みまたは回復中ですが、多くは結膜炎を伴っていました。

ヒトに感染し結膜炎を引き起こした“牛由来鳥インフル”を用いた調査報告がありましたので、ご紹介します。

- (1) ヒトの肺胞上皮細胞と角膜上皮細胞を用いて感染試験を行ったところ、肺胞上皮細胞では効率よく増殖しました。
- (2) マウスやフェレット（実験動物としてのフェレットは、インフルエンザウイルスの感染モデルとして利用されている）に実験感染したところ、病原性は強いという結果になりました。
- (3) フェレットを用いた飛沫伝播性の試験では、ウイルス濃度が低くても 2-3 割程度の確率で飛沫感染が認められました。
- (4) 将来的にウイルスが変異する可能性を考慮し、ノイラミニダーゼ阻害薬に耐性を持つように人工的に遺

伝子改変したウイルスで抗ウイルス薬（ノイラミニダーゼ阻害薬とポリメラーゼ阻害薬）への感受性試験を行ったところ、変異してもポリメラーゼ阻害薬は有効であることが分かりました。

（2024.10月「Nature」より 河岡先生 東京大学 新世代感染症センター）。

インフルエンザの語源は16世紀まで遡ると言われており、すでに500年近くもインフルエンザとの共生は続いています。パンデミックを起こさない、もしくは被害を最小限に抑えるため、今なおインフルエンザの研究は進んでおり、今後さらなる成果が得られることを期待しています。（T）

## お知らせ

### 印刷用の PDF ファイル

印刷用に PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

### メールマガジンへの登録・ご質問等

メールマガジンの配信の停止や登録内容の変更、お問い合わせ、ご意見・ご要望等々は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

### アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

### QR コード

QR コードから、[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできます。

